

拍動性耳鳴で発症した特発性椎骨動静脈瘻の 1 例

A case of spontaneous vertebral arteriovenous fistula with pulsatile tinnitus

高橋 宏典¹⁾ 赤路 和則¹⁾ 富尾 亮介¹⁾ 吉田 啓佑¹⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 脳神経外科

[緒言] 椎骨動静脈瘻は稀な疾患であり、外傷に起因することが多いとされている。今回、拍動性耳鳴で発症した特発性椎骨動静脈瘻の 1 例を経験したので報告する。

[症例] 43 歳女性。突然右拍動性耳鳴を自覚した。頭部 MRA で右椎骨動静脈瘻を認めた。右椎骨動脈撮影にて右硬膜外椎骨動静脈瘻を認め、瘻孔遠位は描出されなかった。左椎骨動脈撮影にて椎骨動脈合流部から逆行性に右硬膜外椎骨動静脈瘻を認めた。右椎骨動脈へ balloon 付き guiding catheter を誘導して右椎骨動脈を閉塞させながら右椎骨動脈撮影、左椎骨動脈撮影を行ったところ flow が早く、瘻孔が非常に大きいと判断し、右椎骨動脈の親血管閉塞を選択した。全身麻酔下で右椎骨動脈より瘻孔遠位まで micro catheter 2 本を誘導し、瘻孔遠位から瘻孔近位まで coil 20 本で塞栓して右椎骨動脈を閉塞した。術後 DSA で右椎骨動脈完全閉塞と右椎骨動静脈瘻消失を確認した。術後経過良好、右拍動性耳鳴は消失した。

[考察] 椎骨動静脈瘻は突然の拍動性耳鳴で発症することもある。椎骨動静脈瘻に対する治療では親血管を温存した瘻孔のみの閉塞が理想的であるが、瘻孔が非常に大きく親血管閉塞を選択するしかないこともある。

[結語] 拍動性耳鳴で発症した特発性椎骨動静脈瘻の 1 例を報告した。